

08 リスクコミュニケーション

食品安全委員会は、食品健康影響評価の結果や食品安全に関する基礎的な知識について、報道関係者、食品関係事業者、研究者、行政担当者、消費者等の様々な立場の方と意見・情報を交換しています

食品添加物や食中毒などに加え、有機フッ素化合物（以下「PFAS」という。）や農薬の再評価など社会的関心の高いテーマについても、対面またはオンライン形式で積極的に意見交換・情報提供を実施しました。

▶ 報道関係者や消費者等との意見交換会

報道関係者向け

食品安全委員会は、報道を通じて、科学的知見に基づく食品の安全に関する情報が幅広く国民に届くよう、報道関係者の方々との意見交換を重視しています。

2023年度は、話題性を考慮し、20周年記念シンポジウム、農薬、PFASの3テーマを取り上げ、対面にて開催しました。評価の目的や意義、方法論やプロセスの透明性、評価の結果の意味なども含めて、活発に意見交換しました。

開催実績

20周年記念国際シンポジウムの事前解説

報道関係者向け：8月

農薬の再評価に係る食品健康影響評価

報道関係者向け：11月 一般向け：3月

PFASの食品健康影響評価書(案)

報道関係者向け：1月 一般向け：2月

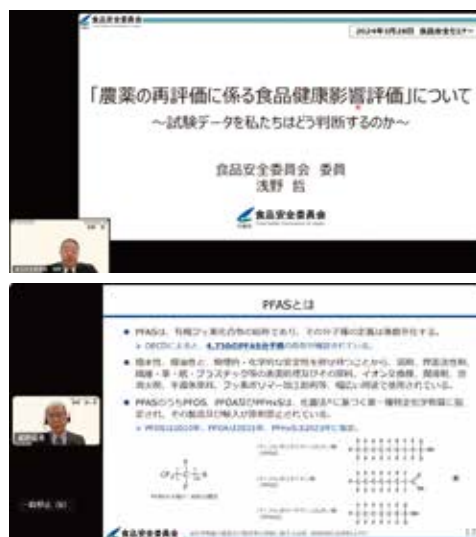


報道関係者との意見交換会の様子

消費者をはじめとする一般向け

食品安全委員会は、広く国民に対して意見交換の機会を作るべく、どなたでも参加できる意見交換会にも力を入れています。

2023年度は、農薬とPFASの2テーマを取り上げ、拡散性・利便性を考慮するとともに、幅広く質問にお答えできるよう、オンラインで開催しました。全国から各回400～500名の方々に参加していただきました。質疑応答では、事前に募集し寄せられた質問に加えて、当日の質問も含め、多岐にわたる皆様からの声に回答しました。



オンライン意見交換会の様子

▶ 講師派遣

食品安全に関して、地方公共団体、消費者団体、関係職能団体、事業者団体等が主催する意見交換会やセミナー等に講師を派遣しています。

2023年度は、沖縄県、京都府、佐賀県、滋賀県と共催して、消費者、高校生、大学生または自治体職員向けの講義・研修を行うとともに、各団体の要望に応じて、「いわゆる健康食品」、「加熱調理」、「食中毒」、「食品添加物」といったテーマについて情報を提供し意見交換しました。また、日本食品衛生学会や日本食品微生物学会等の関連学会に講師を派遣し、これらと連動したブース展示を行いました。



講師派遣の様子